

# 家庭科の金融教育と 社会科・公民科の金融教育

目白大学非常勤講師

新井 明

# 内容

- 1 本報告の問題意識・契機
- 2 山崎エッセイの内容紹介と問題点
- 3 22年からの家庭科での金融教育
- 4 社会科・公民科での金融教育
- 5 家庭科と社会科・公民科の連携と分業
- 6 まとめ これからの金融教育

# 1 本報告のきっかけ

- 2021年10月27日『ダイヤモンドオンライン』に掲載された[山崎元氏のエッセイ](https://diamond.jp/articles/-/285792)「高校で始まる金融教育、「二つの不安」とプロが本当に教えたい10の知識」が出発点。  
<https://diamond.jp/articles/-/285792>
- 家庭科でおこなう金融教育の在り方の検討と山崎氏による10の授業提案の吟味が必要と考えた。
- そのために、実際を知り、整理することが本報告のメイン。
- その上で、家庭科による金融教育と社会科・公民科での金融教育の整理、連携と分業の今後の展望を見つけない。
- 家庭科と社会科・公民科の現場教員による情報と意見交換の場としたい。

## 2-1 山崎エッセイは何を言っているか

- 22年度からの改訂で資産形成の視点に触れることになった。
- 高校生に投資信託に投資することはどういうことを授業で教えられるかもしれない。
- 画期的な変化だが、心配も少なくない。
- 一つは、お金の使い方を家庭科という教科で押し込めて良いのかという疑問。
- もう一つは、担当の教員が、内容を理解できていて、本当に教えられるかという心配。
- 心配していても動き出すのであれば、金融のプロとして10個の授業提案を試してみる。

## 2-2 山崎提案による10の授業

- (1) お金の意味
- (2) 貯蓄の必要性
- (3) 税金と社会保険料
- (4) 複利の計算
- (5) 割引現在価値の考え方
- (6) 投資と投機の違い
- (7) リスクの見積もり方
- (8) 分散投資の効果と重要性
- (9) 金融商品の手数料コストの重要性
- (10) 金融で他人を頼ることの危険性

## 2-3 山崎エッセイの良い点・問題点

### <良い点>

- 「金融のプロ」が課題を指摘した点、及び、授業プランを具体的に提示している点。
- 家庭科だけでなく、社会科・公民科、数学科など関連教科との連携が必要であることを指摘している点。

### <問題点>

- 学習指導要領のミスリードもしくは十分に理解して書いていない、もしくは読んでいないのではないかとと思われる点。
- 10の学習項目のなかには、高校レベルで必要かどうか、現実的に可能かどうかなど、疑問な部分があること。（割引現在価値、投資と投機、リスクの見積もり方、分散投資の効果などの学習内容）
- 損得、金融ビジネスの視点が必要という、日頃の山崎氏の主張に沿った内容構成であり、バイアスがあること。

### 3 22年からの家庭科 での金融教育



## 3-1 家庭科における金融教育の取り組み

- 現学習指導要領（平成22年版）以前から金融教育に関しては取り組んできている。
- 生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりなどについて理解させ、経済計画とリスク管理の必要性について考えさせる。
- クレジット、住宅ローン、保険、株式など具体的な事例などを通して理解させる。という文言がすでに登場している。
- 今回は、かなり詳細に金融商品や資産形成にふれているが、これまでに加えて債券と投資信託が入った程度とも言える。
- マスコミ報道、金融関係団体が、「それ投資信託だ」ということで過剰反応を示しているとも言えるかもしれない。



## 3-2 新学習指導要領での金融の扱い

- C 持続可能な消費生活・環境（「家庭基礎」の場合）

- (1) 生活における経済の計画

- ア 家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理について理解すること。

- イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などに関連づけて考察すること。

- 家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。

- その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。

### 3-3 実態としての授業時間

- 「家庭基礎」は2単位。（半分は実習、2時間連続が多い）
- その学習項目は以下の通り。（家庭総合でも基本は変わらない）
  - A 人の一生と家族・家庭及び福祉
  - B 衣食住の生活の自立と設計
  - C 持続可能な消費生活・環境
  - D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
- 金融教育は、この4つの項目のCに属す。実際に資産運用などに関わる授業時間は、多くて2時間。場合によっては1時間でしかない。
- その意味では、先にも触れた過剰反応であることは現場の実態からも言えるのではないか。

## 3－4 新指導要領での家庭科の教科書は

- 高等学校「家庭基礎」「家庭総合」の教科書の目次と主な内容（略）
- その特徴：
  - 1 ほぼ学習指導要領、および解説通り。
  - 2 18歳成人を前提にして、購入に関する意思決定、契約に力点がある。
  - 3 資産に関しては解説に例示されたものにプラスしてiDECO、NISA、FXなどを扱う教科書も出ている。
  - 4 家計と経済のグローバル化に関しては、公民教科書の内容と重複している。

# 3-5 実教出版「家庭総合」の構成と内容

## 1 暮らしと経済

### 1 家計と経済のかかわり

①暮らしと家計      ②国民経済と国際経済

### 2 生活に必要な費用と管理

①収入      ②支出      ③貯蓄、保険、負債      ④家計管理

### 3 現代の家計の動向

## 2 将来のライフプランニング

### 1 人生設計とお金

### 2 リスク管理と資産形成

①人生のリスクと備え      ②資産の形成

## アクティビティ

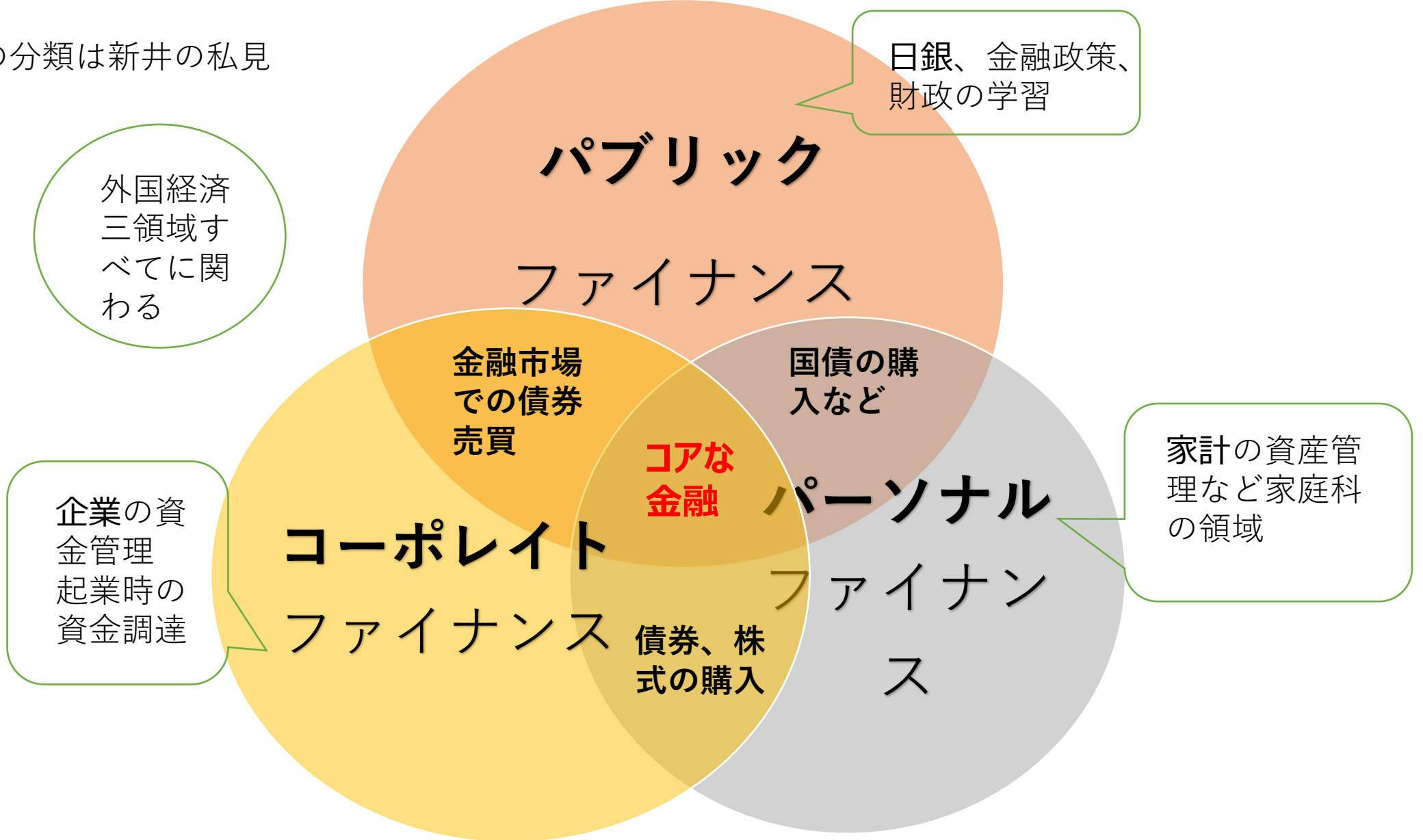
マイクロプラスチックって何？、スマートフォンから生活を見る  
生活設計ワークシート

## 4 社会科・公民 科での金融教育



# 4-1 経済からみた金融の位置、役割

この分類は新井の私見



## 4-2 金融、経済主体・借手と貸手

| <div>借手<br/>貸手</div> | 政府へ           | 企業へ                          | 家計へ                   |
|----------------------|---------------|------------------------------|-----------------------|
| 政府から                 |               | 政府関連機関による投資                  | 奨学金<br>返済が必要な補助       |
| 企業から                 | 国債引き受け、<br>売買 | 企業間金融<br>各種金融商品への投資          | 住宅ローン、消費<br>者金融、クレジット |
| 家計から                 | 個人向け国債        | 株式、投資信託<br>社債、各種金融商品<br>への投資 | 個人的貸借<br>頼母子          |

## 4-3 金融のコアな部分とは

- 金融とはお金の貸し・借り。現在と将来のお金の取引と言っても良い。誰かの貸しは、誰かの借りという構造がある。
- 金融理解の難しさは、将来判断の難しさから由来する。
- したがって、お金を貸すことができるか、借りる事ができるかの判断には信用（過去の実績、現在の姿、将来の予測）が絡んでくる。
- 金融にはフローの金融概念とストックの金融概念がある。
- フローの金融は、直接なり間接なり市場を通したお金の貸し借りの流れである。
- ストックの金融は、借りたお金（住宅ローン、クレジット、預貯金の残高、各種の金融資産の管理・運用）に関連する貸借である。
- お金の貸し借りには利子が伴う。ここから単利と複利の知識が必要となる。



## 4-4 社会科で扱う金融は① 中学教科書（帝国）から

- 貯蓄とは、所得の一部を現在の消費に使わずに、将来の消費に備えてお金を貯めておくことです。  
（家計支出の割合の図）
- 借金とは、将来の消費を減らして現在の消費を増やすという選択です。（貯蓄の目的の図）
- 「一人暮らしにかかるお金を考えよう」
- 「パン屋の起業での資金調達方法を考える」
- 「金融の仕組みと働き」…間接金融・直接金融、利子、決済、金融機関、フィンテック、家計簿アプリ、クラウドファンディング
- 「ライフプランからお金について考えてみよう」…ライフプラン、金融商品、リスク・リターン、社会の発展とお金

## 4-4 社会科で扱う金融は②

中学教科書（帝国）から

- 「日本銀行の金融政策」…日本銀行の役割、金融政策、近年の金融政策
  - 「グローバル経済と日本経済」…為替レート
  - 「私たちの生活と財政」…税金
  - 「国の支出と収入」…税金、国債
  - 「社会保障と私たちの生活」…社会保険
  - 「これからの日本の財政」…国債は政府の借金
- 
- 主に、家計からの金融の視点もあるが、マクロの視点からの金融知識の紹介が多い。
  - 金融取引に関わる直接の意思決定場面はほとんどない。

## 4－5 高校「公共」での金融の扱い 学習指導要領より

- ・「金融とは経済主体間の資金の融通であること」の理解を基に，金融を通じた経済活動の活性化についても触れること」（内容の取扱い）が必要。
- ・金融は、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ，生産性を高め，社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解できるようにする。
- ・また，近年の金融制度改革の動向や金融政策の変化などを理解できるようにする。
- ・フィンテックと呼ばれるIoT，ビッグデータ，人工知能といった技術を使った革新的な金融サービスを提供する動き，クレジットカードや電子マネーなどの利用によるキャッシュレス社会の進行，仮想通貨など多様な支払・決済手段の普及，様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて，身近で具体的な事例を通して理解できるようにすることも大切である。



## 5 家庭科と社会科・ 公民科の連携と分業

# 5-1 家庭科のイメージ・社会科のイメージ

地球を外から眺める  
社会科の視点（マクロ経済の場合）  
与件を疑う、制度設計の思想がある



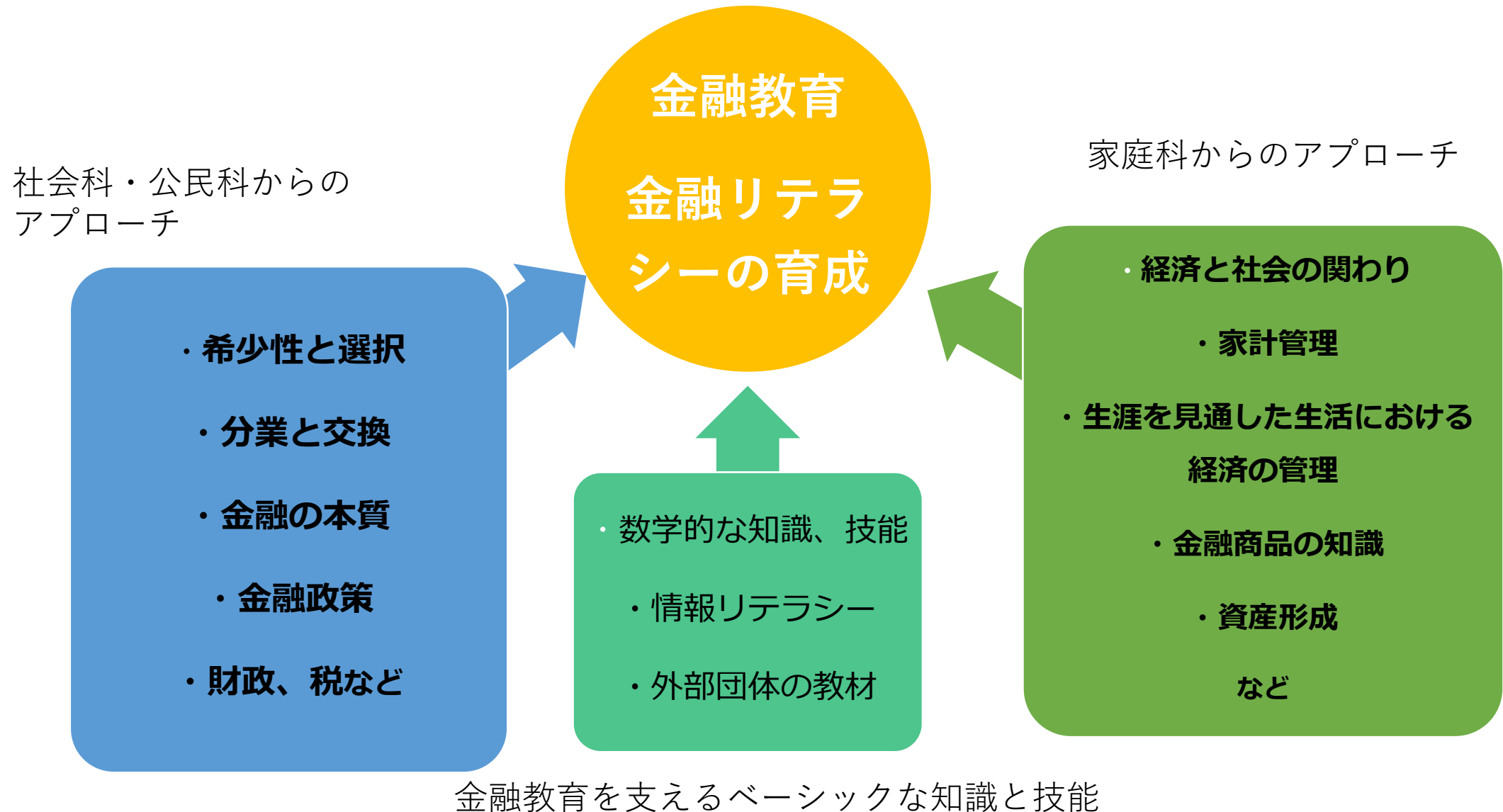
社会科の課題、①政策判断、②自分化、  
③総合性

家計から経済と関わる家庭科の視点  
ライフステージと資産管理  
前提を疑う要素は少ない？



社会科の課題と重複するが、立脚  
点は私、家庭

## 5-2 家庭科と社会科・公民科の連携と分業



## 5－3 連携の観点から山崎提案を吟味する①

| 項目           | 社会科・公民科                                           | 家庭科                                 |
|--------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) お金の意味    | お金の発生、役割                                          | 自分にとってのお金を問う                        |
| (2) 貯蓄の必要性   | 貯蓄の意味、貯蓄が経済全体に果たす役割                               | 自分にとっての貯蓄の意味、その必要性<br>実際にどれだけ必要か計算  |
| (3) 税金と社会保険料 | 福祉国家の政策を支える制度としての税、社会保障（年金制度の持続性など）<br>政策判断としての税制 | 自分にとっての負担としての税金、社会保険料<br>給与明細を使った授業 |
| (4) 複利の計算    | 基礎的知識と技能として授業に組み込む                                | 実感的知識として体験させる                       |
| (5) 割引現在価値   | 不要（アリとキリギリス程度なら可能）                                | 不要                                  |



## 5－3 連携の観点から山崎提案を吟味する②

| 項目               | 社会科・公民科                             | 家庭科                    |
|------------------|-------------------------------------|------------------------|
| (6) 投資と投機の違い     | 投資の経済的意味、投機の経済的意味の紹介                | 自分にとっての投資（教育、資産など）の役割  |
| (7) リスクの見積もり方    | リスクの正確な概念（危険・リスクの振れ幅）と金融商品のリスクの見分け方 | 金融商品のリスクの見分け方          |
| (8) 分散投資の効果      | 社会科では不要                             | 分散投資のメリットを紹介（タマゴの話）    |
| (9) 金融商品の手数料コスト  | 社会科では不要                             | 手数料がかかる程度の話            |
| (10) 他人を頼ることの危険性 | 社会科では不要                             | 自己責任と適切なアドバイスの必要性を紹介程度 |



## 5-4 山崎提案では触れられていない点

### <行動経済学の知見>

- 金融ファイナンスでの人間の間違ひは行動経済学的に分析されている。
- 例えば、不確実性の下での意思決定にはプロスペクト理論で説明される。現在と将来の選択には現在バイアスがある。など
- 行動経済学的特性を組み込んだ金融教育の方が、生徒の実感や興味を引く可能性が大きいのではないか。

### <ライフステージとの関連>

- 個々の学習項目はあるが、それらをつなぐライフステージの視点が弱い。

### <情報科との連携>

- 数学科との連携は提案されているが、計算などは情報科との連携で計算ソフトやシミュレーション教材の活用などのタイアップが有効であろう。（複利計算のプログラミングを学ぶことになっている。）

## 6 まとめと補足



## 6 まとめ これからの金融教育

- きわめて基本的だが、お互いが何を教えているかの情報交換がもっと必要である。
- 他教科（例えば、家庭科、数学、情報）の教科書を一度読んでみたい。
- 家庭科だとほとんど社会科・公民科の金融のページと同じ内容であることに驚くはず。数学では生活と数学の項目で、金融に関する内容を扱っている（特設ページなどで）。
- 連携はそれからであろう。また、適切な分業関係を結ぶことが求められる。（コラボ授業の例は「補足4」に）
- 後は、視点の違いを強調しながら、生徒の将来にとって必要な箇所は重複してもよいから取り扱うべきであろう。

# 補足1 金融を教えるのに不安な先生のために

<文献> これ一冊でわかるという本はないが、

- 川西諭、山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣

経済学の立場で、金融の力の本質をやさしく扱っている。大学初年級むけ。

- 幸田博人、川北英隆編著『金融リテラシー入門基礎編』金融財政事情研究会

金融庁などをバックに京都大学での講義をまとめた本。なぜ金融教育が求められるか、その動きと基本的な内容が扱われている。基礎編だけで十分。

<外部団体の教材> 玉石混交だが、

- 『金融教育プログラム』金融広報中央委員会

ここの巻末に、まとめられている各種団体の教材で使えそうなものを探すことをすすめる。また、どんどん新しいものがでてきているので知るポルトなどを通してチェックをわすれずにしておいてほしい。

# 補足2 アメリカの金融教育の動向

<https://www.councilforeconed.org/national-standards-for-personal-financial-education/>

[Home](#) / National Standards for Personal Financial Education

## National Standards for Personal Financial Education

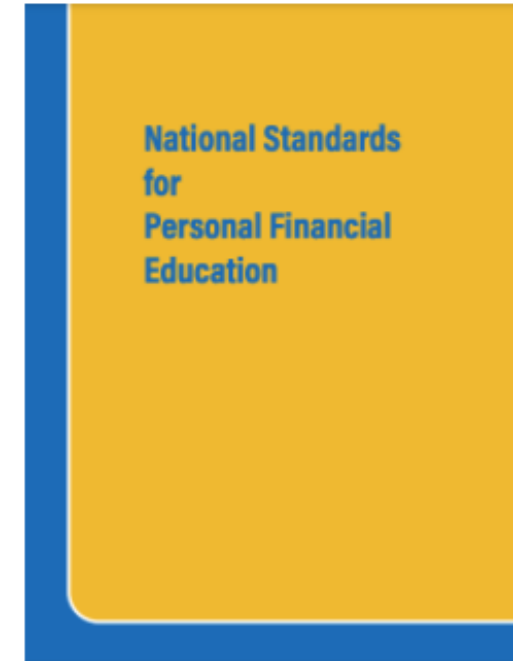


The Council for Economic Education (CEE) and the Jump\$Tart Coalition for Personal Financial Literacy (Jump\$Tart) are excited to share an updated and unified set of national standards for teachers, administrators, curriculum and resource developers, researchers, and others in the field to promote effective, comprehensive financial education for K-12 students.

The standards are organized around six topic areas:

- 1) Earning income
- 2) Spending
- 3) Saving
- 4) Investing
- 5) Managing credit
- 6) Managing risk

The standards identify knowledge, skills, and decision-making abilities that all young people, without regard to race, gender and family income, should acquire during their K-12 education as a framework for their lives as smart consumers. They incorporate evolution in areas such as behavioral finance, higher education financial planning, identity theft, mobile payments and cryptocurrency.



[Click here to download the 2021 National Standards for Personal Finance Education](#)

[Download](#)

ダウンロード可能なので一度目を通して見ると良い。

## 補足3 植村先生（筑波大駒場中高）からの情報

- 金融のプロからの提言では、[森永康平氏](#)の論考が現場の実態も踏まえた良い指摘をしているとのこと。
- [投資以外の知識も広く学べるが、限られた時間でどこまで理解できるかが課題](#)（エコノミストOnline、2021年8月23日）
- 子どもの理解力・想像力を侮ってはいけない 「金融教育」で子どもたちから飛び出す大人顔負けの回答（エコノミストOnline、2021年10月22日）

## 補足4 家庭科とのコラボ授業の例

- 都立国際高校の宮崎美喜男先生（公民）と岩澤未奈先生（家庭科）のコラボ授業。
- [https://www.kyoiku-tosho.co.jp/news\\_list/185/](https://www.kyoiku-tosho.co.jp/news_list/185/)
- 2021年12月11日の金融広報中央委員会主催の「先生のための金融教育セミナー」で紹介あり。
- 家庭科は生活者の視点、公民科は社会のしくみを伝えるという違いが強調されていた。